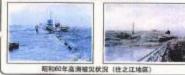


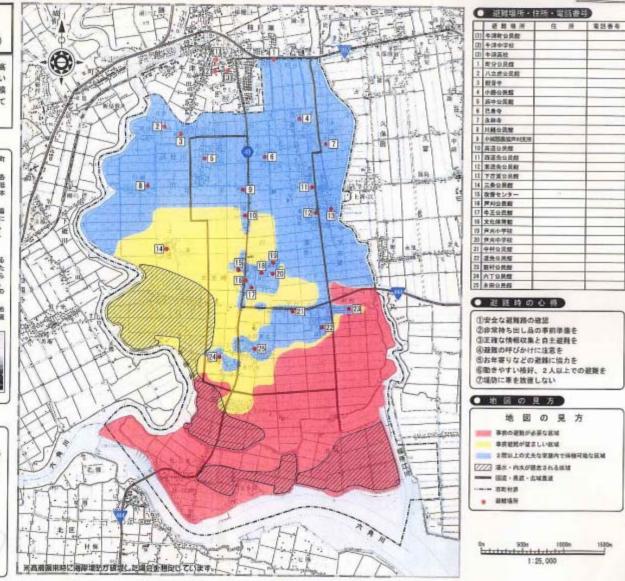
低平な干拓地である声刈町は、高潮の危険性が高 く、昭和60年にも住之江地区で高潮被災を受けてい ます。この地図は、これまでに想定されている規模 以上の高潮が起こると予測される場合にも、あわて ず、進やかに避難するための高潮避難地図です。

通去の被災記録

- 声以町の干拓の歴史は高潮とのたたかいの歴史です。 戸以町 における基大な坂沢記録としては以下のものがあります。 〇大正3年表博施設: 六角川の大記部に加え、海洋堤防は冬 所で決墜し、河川に加加し高期記録流が面なり、井楠都任 平地においては潜基な被害をもたらした。 満川町では、本 北屋が干拓地は水炎し数年間動作本可能となった。 "煤場を突破せる海礁は、物に果じて弾機し、田を沈め、 吉定多り、用を探か、次を踏む、初ら本するものは、美汗に 若けずんば止まざらんとす。老坊和物はず、大参相類みず、 第に離れ、兄を求め、或は福社。武協進会、意鳴叫句の登 満派に和し、風雨に乱れて、物便じなど言ふばかりなし。 (神場那点潮波)要あより) の昭和4年大来書: "34米"とよばれるジュディス会現による
- 高期に伴う高麗山の大足型で、声以前に基大な観察をもた らした。上淡からの可川江雪のため、本土屋で含い止めら れたが、側面堤が落木により破退し、海水が入り込んだ。 高期により、信田は開催し、小園になるまでの2週間もの 鍵、戸刈町の大部分が干満の影響下にあった。
- 〇町和約年高準被災:台島13号による高際練営で、住之江地 宮にて家屋の倒壊や田畑の淡水があった。住之江港南位服 測史上最高のT.P.141 和16を記録している。







別紙-4

11

防波堤の評価方法

